

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名		公表日				
放課後等デイサービスCOCORO小郡		2025年 4月 1日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12		運動療育を行う場所、個別療育を行う場所等スペースを分けている。	落ち着いて活動できる環境を作っているが音や人の声が入ってくる為改善する必要がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12			配置的には問題はないのだが、個別療育を充実していく為には、補充が必要なのではないか？
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	2		現状手すりを必要とする利用者はいないが今後対象の利用者を受け入れる際は、バリアフリー化を設置する必要がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12		整理整頓を行うために写真など利用して利用者が使いやすい片づけやすい環境にしている。	物の配置など写真など利用しているが利用者が把握できていない点も見られるので、もう一度配置を見直していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12		必要に応じて個別の部屋での活動を行っている。	個別の部屋の使い方や、配置などに工夫が必要なので、職員間でもう一度見直していく。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	9	業務改善の為のPDCAサイクルは確立している。	全体的に浸透していない点が見られ、もう一度職員間全体で確認の必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	2	保護者向けの評価表においての意向などは職員間で共通認識として把握する場を必ず設けている。	全体での確認を行っているにも関わらず把握できていない職員がいることはとても残念なのでもう一度職員間での確認する場を必ず設けることにする。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	4	毎日朝礼・終礼を職員全体で行い業務確認を行っている。また、月曜日には、スタッフミーティングを行い一週間の事や、利用者の事を確認している。	このままスタッフミーティングや朝礼・終礼は確実に行っていき継続していきながら、必要に応じてミーティングも随時行っていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	7		第三者評価を行っていないので、次年度は行っていくように進めていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	3	事業所内での研修を定期的に行い、事業所外での外部研修にも参加している。	外部研修では、人員配置に余裕がある際しか出れない時もあるので、もう少し職員が研修を受けやすい配置を考えていくようにする。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	1	支援プログラムは、利用者に応じたプログラムを作成していき、職員間で見直している。	職員全体で支援プログラムを見直す機会を作っていく中で職員間での意識を高めていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	11	1	個々の子どもに対してのアセスメントを適切に行っている。また、それぞれに応じた児童発達支援計画をAIを活用し、多職種（PT・OT・保育士・児童指導員）で考え支援計画を作成している。	AIを利用し計画を立てていく事で客観的に一人一人の発達を踏まえた計画を立てることが出来るか？をもう一度職員間（PT・OT・保育士・児童指導員）で確認していく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	1	職員間で話し合い共通理解のもと検討を行っている。	こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した上での検討を行っていく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	2	児童発達支援計画が職員間に必ず共有され、計画に沿った支援が行われている。	今の現状をこのまま継続していき職員間の意識を高めていきたいと思う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	2	こどもの適応行動の状況を、アセスメントや、日々の行動観察により確認している。	職員全体で共通理解のもと確認していくようにする。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	3	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されている。	今後も今のままの現状を継続していき、職員の意識を高めていけるような支援内容を設定していけるように、自己研鑽を行っていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	3	活動のプログラムの立案は職員全体で行っている。	多職種で問題点が出てきた際に、チームを作り活動プログラムの立案を行い見直していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11	1	活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	毎回、活動プログラムを見直していく時間を設け職員間で話し合って確認していく。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	1	毎日朝のミーティングを行い支援について確認していく。	チームで勉強会や事業所内研修などで支援について見直す機会を設けていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	3	その日行われた支援の振り返りを行い、終礼にて再度気付いた点等を共有している。	毎日の振り返りや共有はそのまま継続して行い続けていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	2	毎日HUGにて記録し変化があった場合共有している。	全体で共有していく中で、改善点や支援の検証を行う時間を作っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	1	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っている。	そのまま今の状況を継続して行っていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	2	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画している。	サービス担当者会議等の情報は必ず職員間で共有しているが、全体で話し合う機会をもう少しきちんと取ってきたい。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	3	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えている。	連携を行っている情報を職員間全体で必ず共有していけるように配慮していく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園等)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	1	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っている。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園等)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	現状を継続していく中で職員間の意識をもう少し高めていけるような職員間の環境づくりに取り組んでいく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	2	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	情報共有や相互理解を図っているが、職員全体での意識を高めていく必要がある。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	10		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けていないのでこれから必要に応じて設けていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	9		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会が少ないのでもう少し工夫して行っていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	3	HUGやLINEを通してまたは、必要に応じてTELや訪問して保護者にこまめに連絡し伝えている。	このままの連携の取り方を継続していきながら保護者と連携を図り共通理解を深めていきたい。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	9	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っている。	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を家族の対応力の向上を図る観点から、行っていく必要があるのとおりいれていく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12		契約時に児童発達支援管理責任者が説明を行っている。	そのまま継続して行っていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12		6ヶ月に1度モニタリングを行い保護者と面談を行い子どもや家族の意向を』確認している。	こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認している児童発達支援計画を作成する。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12		「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている。	そのまま継続して今のように説明の機会を作り行っていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12		家族等からの子育ての悩み等に対する相談があるときは適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っている。	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に応じていき定期的に面談や必要な助言と支援を行っていくようにする。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	10	夏祭りや餅つきなど保護者との交流の場をもっている。	夏祭りや餅つきだけでなく、保護者同士の交流会が少ないため、定期的に保護者会等を取り入れていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12		HUGやLINEを通してまたは、必要に応じてTELや訪問してその都度、時間外でも保護者と連絡を取り対応している。	こどもや保護者からの相談や申入れがあった際は、対応の体制を職員間で整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合は迅速かつ適切に対応していくようにする。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11	1	お便りを通じて活動やイベントの共有をしている。連絡については連絡帳、HUG、LINEを活用して行っている。	そのまま今の現状を継続し行っていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12		契約時の規約やマニュアルに沿って取り扱いに注意している。	職員間で厳重に取り扱いについては留意していく為もう一度確認していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12		個人情報の為電話・Lineワークスを使用したり個別の部屋を利用し配慮しながら行っている。	個人情報の為電話・Lineワークスを使用したり個別の部屋を利用し厳重に配慮しながら行っている事を職員間で熟知しておく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	9		地域との交流が少ない為、地域の行事や清掃活動に参加させてもらうなど、今後取り入れていく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	1	危機管理についての全てのマニュアルを職員間で検討し、避難訓練計画などを通して訓練を行っていく際には、その日の反省を職員間で行っている。	今のまま、危機管理についての全てのマニュアルを職員間で検討し、避難訓練計画などを通して訓練を行う際には、その日の反省を職員間で行うなど継続して行っていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11	1	業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	現状通り、業務継続計画（BCP）に従い、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っていくことを継続していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12		こどもの 病理経歴や状況は契約時に確認をし、面接時にも再度確認をとり職員全体で把握している。	事前アンケートや定期的に健康状態を把握できるアンケートを利用し職員間での共通理解を図る。
非常時等の対応	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	1	こどもの 病理経歴や状況は契約時に確認をし、面接時にも再度確認をとり職員全体で把握している。また、かかりつけの医療機関などの情報も把握している。	こどもの 病理経歴や状況は事前にかかりつけの医療機関などの情報を把握しておき、職員間全体が確認できるように準備しておく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	2	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行っている。	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じていき現状を維持していきながら、安全管理が十分された中で支援を行う事を継続していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	2	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知している。	現状通り、こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図りながら、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知していく事を継続していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12		ヒヤリハットをまとめ共有し、再発防止を検討している。	職員全体で常に危険回避できなかった際のヒヤリハットをまとめていき検証して次回への課題を見つけていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	1	職員間で虐待防止の研修を行っている。	適切な対応や虐待が行われていた時の対策など職員間で必ず研修を行い共通理解を深めていく
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12		対象者はいないが、万が一の為の職員間での研修を行っている。	職員間で共通理解を深めるため、身体拘束についての研修を必ず行っていく。

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	放課後等デイサービスCOCORO小郡		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11世帯（11名）	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	OT,PT、保育士、児童指導員と幅広い人がいる	一人の利用者に対してみんなで話し合い意見を出し計画を立てている。	事例に応じて勉強会を行う。 今以上に連携を図っていく。
2	利用者の活動の選択肢が多い	利用者に応じた活動が出来る。	今以上に利用者に応じた活動を提供していく。
3	集団療育だけでなく個別療育をする事が出来る	個別療育が必要な利用児に対して個別の部屋での対応やスタッフと1対1での活動を行っている。	今以上に連携を取り、スムーズに集団療育から個別療育への切り替えが出来るようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	道具等が置いてある場所へ入りやすい	ロッカーの裏側にありすぐに入れてしまう。	スタッフのみが動かせる棚等を置き利用児が入ることが出来ないようにする。 危険な荷物を別の場所へ移動させる。
2	スタッフの支援力のばらつき	経験年数やスキルにばらつきがある。	外部研修の参加や資格の取得等でのスキルアップ。 社内研修による職員の知識共有。
3	環境面	環境が広いため落ち着いて活動が行えない利用者がいる。	もっと落ち着いて活動が出来る環境づくりを行う。

公表

事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名		放課後等デイサービスC O C O R O小郡			公表日		2025年 4月 1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11	1		多い時は20名を超える時があり密度が高くイライラする児童もいるため個別の部屋へ移動させたり、活動を分散させて対応をしている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	11	1		配置上問題はないが個別対応が必要な利用児に対しての対応を検討していく必要がある。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	3	開けた空間になっている。 パーテーションで区切っているスペースがある。	もう少し使いやすい工夫が必要 ジョイントマットと床のわずかな段差があり つまりく児童もいる。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	1	整理整頓を行うために写真など利用して利用者が使いやすい片づけやすい環境にしている。	もっと使いやすいよう整理整頓にもう少し工夫を行っていく。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12		クールダウンが必要な際使用できる区切られたスペースがある。	区切られたスペースの数が限られている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10	2	業務改善の為のPDCAサイクルは確立している。	全体的に浸透していない点が見られ、もう一度職員間全体で確認の必要がある。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	9	保護者向けの評価表においての意向などは職員間で共通認識として把握する場を必ず設けている。	評価表においての意見を踏まえ業務改善を行っていく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	2	毎日朝礼・終礼を職員全体で行い業務確認を行っている。 また、月曜日には、スタッフミーティングを行い一週間の事や、利用者の事を確認している。	このままスタッフミーティングや朝礼・終礼は確実に行っていき継続していきながら、必要に応じてミーティングも随時行っていく。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		12		第三者評価を行っていないので、次年度は行っていくように進めていく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	2	事業所内での研修を定期的に行い、事業所外での外部研修にも参加している。	今後も研修に参加していきスタッフ間での共有を行っていく。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	1	適切に支援プログラムが作成、公表している。	公表をするときに保護者にも通知を行う。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11	1	個々の子どもに対してのアセスメントを適切に行っている。また、それぞれに応じた放課後等デイサービス計画をAiを利用し作成している。	Aiを利用し計画を立てていく事で客観的に一人一人の発達を踏まえた計画を立てることが出来るか？をもう一度職員間（PT・OT・保育士・児童指導員）で確認していく。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	2	職員間で話し合い共通理解のもと検討を行っている。	こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した上での検討を行っていく。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	1	放課後等デイサービス支援計画が職員間に必ず共有され、計画に沿った支援が行われている。	今の現状をこのまま継続していき職員間の意識を高めていきたいと思う。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11	1	こどもの適応行動の状況を、アセスメントや、日々の行動観察により確認している。	職員全体で共通理解のもと確認していくようにする。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	2	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されている。	今後も今のままの現状を継続していき、職員の意識を高めていけるような支援内容を設定していけるように、自己研鑽を行っていく。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	6	職員間で検討し活動のプログラムを立てている。	多職種で問題点が出てきた際に、チームを作り活動プログラムの立案を行い見直していく。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	2	活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	毎回、活動プログラムを見直していく時間を設け職員間で話し合って確認していく。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	11	1	普段より個別、集団活動を行っており、個人の特性を踏まえた支援を提供している。	個別活動をもっと増やしていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	3	朝のミーティングを行っている。	全体での共通理解は確立していない為、もっと職員間での打ち合わせを行い、連携して支援を行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	4	当日ではないが週に1度行っている。	時間を設け、もう少し振り分ける機会を設けていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	1	毎日HUGにて記録し変化があった場合共有している。	全体で共有していく中で、改善点や支援の検証を行う時間を作っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	1	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っている。	そのまま今の状況を継続して行っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	3	上着をハンガーにかける事や持ち物の整理整頓等生活スキルを身に付ける活動や工作等の創作活動を日々行っている。	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	11	1	声掛けのスキル向上を常に心がけ支援を行う。	他の選択肢をもっと取り入れていける様にする。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	1	日々関わっているスタッフが参加している。会議前にミーティングを行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	2	日常的に関係機関との体制は整っている。	緊急時を想定し、かかりつけや行政との連携を整える。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	12		トラブルが起きたりした際は電話にて聞き取りをしたり対を打出来ている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	12		状況把握して、より良い支援をするために連携を図っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10	2	移行先に対して電話や訪問での情報提供を行っている。	児童の利用時の様子や家族との関わり等、日々の経過の記録をしっかりと取る。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10	2	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けることが出来ていない。	今後、地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	9		地域との交流が少ない為、地域のイベント等に参加していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	10	管理者、児童発達管理責任者だけでなく、様々なスタッフが参加できるように努めている。	改めて協議会への参加への認知を行う。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12		毎日、連絡帳やHUG等で日々の出来事の共有を行っている。	
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	10	現在、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行なえていない。	家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の研修に参加し情報提供等を行っていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	1	契約時に児童発達管理責任者にて行っている。	説明に要する時間の配慮を気を付ける。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11	1	事前にアンケートやLINEにて情報の交換を行っている。	書類作成時、端的な言葉でわかりやすく文章にする事を気を付ける。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	12		支援内容の説明を行い保護者から同意のサインを得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12		電話や連絡帳を通じ支援をおこなっている。	家族が納得のいく支援を心がけていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		12		保護者同士の交流会が少ないため、定期的に保護者会等を取り入れる。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12		その際訪問や電話にて対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	12		お便りを通じて活動やイベントの共有をしている。連絡については連絡帳、HUG、LINEを活用して行っている。	

	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12		契約時の規約やマニュアルに沿って取り扱いに注意している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12		個人情報もある為十分に注意して電話や個別の部屋にて対応している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	10		地域との交流が少ない為、今後取り入れていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	1	マニュアルを策定している。 定期的に避難訓練等をおこない再確認している。	お便りにて発信していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12		防災マニュアルに基づいて定期的に開催している。	様々なパターンでの防災訓練が出来るようにしたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12		こどもの 病歴経歴や状況は契約時に確認をし、面接時にも再度確認をとり職員全体で把握している。	事前アンケートや定期的に健康状態を把握できるアンケートを利用し職員間での共通理解を図る。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	1	こどもの 病歴経歴や状況は契約時に確認をし、面接時にも再度確認をとり職員全体で把握している。また、かかりつけの医療機関などの情報も把握している。	新年度を迎えるため再度確認を行う。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	9	都度セミナーや研修に参加し、アウトプットし対応している。	職員間での共有する場をより設け周知する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	3	日頃から家族との関りの中で情報共有している。	都度スタッフ間で話し合い保護者へ説明を行う。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12		ヒヤリハットをまとめ共有し、再発防止を検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	1	虐待防止の研修を行っている。	漏れがないようスタッフ間で情報共有を図り防止に努める。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	12		対象者はいないが万が一の場合のせつめいを行っている。	

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	放課後等デイサービスCOCORO小郡		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29世帯（30名）	(回答者数) 30名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	OT/PT、保育士、児童指導員と幅広い人がいる。	一人の利用者に対してみんなで話し合い意見を出し計画を立てている。	事例に応じて勉強会を行う。 今以上に連携を図っていく。
2	利用者の活動の選択肢が多い。	利用者に応じた活動が出来る。	今以上に利用者に応じた活動を提供していく。
3	集団療育だけでなく個別療育をする事が出来る。	個別療育が必要な利用児に対して個別の部屋での対応やスタッフと1対1での活動を行っている。	今以上に連携を取り、スムーズに集団療育から個別療育への切り替えが出来るようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	道具等が置いてある場所へ入りやすい。	ロッカーの裏側にありすぐに入れてしまう。	スタッフのみが動かせる棚等を置き利用児が入ることが出来ないようにする。 危険な荷物を別の場所へ移動させる。
2	スタッフの支援力のばらつき。	経験年数やスキルにばらつきがある。	外部研修の参加や資格の取得等でのスキルアップ。 社内研修による職員の知識共有。
3	地域との交流。	地域と交流する機会が少ない。	地域のイベント等への参加を増やす。